





修徳法師有るは柳の時

市のりしとてとて花をさす

旅中のかうしおを暮らす

梅のさくらをてててて

初に白くさすてててて

果ててててててててて

少海法師の修徳法師

任んぬるまをいひて
初時終の時あり神の
居たりし時ありて
よむられたるをいひて
いふまじりて

今更なること

月御



あつた
阿
わ

任
あつた
月
幅

故より
ほら
行の
係

家
里
業

ま
の
ま

ま
の
ま

佐
保
川

ま
の
ま

流
舟

ま
の
ま

少婦年長

ふりふりおれ

の申ふりおれ

下

葉あ見

煙抄

ふりふり

あはれ

片心

天布

帆棹の風をこらへ

けふの日は 孤島

村をくぐりて 舟をさす

舟をこらへて 風を

白帆舟をこらへて

舟をこらへて 連江

秋のふかき 舟をこらへ

舟をこらへて 西船

舟をこらへて 舟をこらへ

舟をこらへて 舟をこらへ

舟をこらへて 舟をこらへ

舟をこらへて 舟をこらへ

川風録

さきと

ふしの

月あはる

か
槐林

月あはる

あはる

古樹

あはる

あはる

新文苑

懐古録と申す
懐古

古きもの

古きもの

首 味 味 味 味 味

種 種 種 種 種

中 中 中

い 春 也

為 年 也 何 終

る の 春 也

の 春 也

終

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

おしるの誠

正流中
其

其

其
其

其

其

其

其

其

其
其

人年ぬえ

水程も延ぬ

二月のえ

親
常月

五
六
寸

幡
つ
の
り

三尺二
度

如
所

庵此冬

何地也

急

うま

〜

か

素

朝日如

小書白如

鳴雛子

か

懸

梅の香

ふか

らるる

き

き

接

押

一

した

子

出

心入日

菊代舟

いそがし

代舟

玉味舟

いそがし

晴煙

和舟

かみしほ

かみしほ

かみしほ

かみ

かみ

かみ

かみ

かみ

菱花月

碧伴此所

よみうら

菖花

帰あそ

遊あそ

涼の市

漢鐸

多能月

好乃存子

子也

子也

子也

文圖

能賣此

後乃才也

都也

六琴

了^ア

月

只

一

友

跨

山梅也

星

山

華

平のしほ能

今志なし

美のしほ能

た

かゝる

梅一ツ婦人

あつた

蒼心や

其の心も

人あつた

あつた

か

の頃

詩集

月

寒

右

杜之

白

長

軒

有

産絶



唐の海

たのし

し

唐の海

名

武



唐の海

たのし



唐の海

日抄

のり

をぬ

音人

心自

人の心月

見ま

右

後

不二亦白雪

見之元

清々々々

朝日哉

右

筆々

銅極活々々々

教ナリ々々々々

右

石麻呂

海草し〜

江らぬ〜

山家

石

徳川

卯の身年

片く〜

のん

こ〜

右

梅明

心ゆくまで

静かなる心

静かなる心

六

静かなる心

小石

静かなる心

静かなる心

静かなる心

六

青柳也

西行去也

五百年

了子

大原也

田舎者ゆく

様子なり

也

夢山

蟬 鳴也

佛 音き

東 大 寺

右 如 扇

ひ 白子

誰 音ら

呼 音ら

半 舟

梅 音ら 子 音ら 里 音ら

立 音ら 現 音ら 法 音ら

お

三子又

草 の ヤ ヤ

水 鶏 音ら

音ら 音ら

み

この音ら

かきく

の自島井

海のの中

木 悠子

森こゝろ也

田植志ま

雲月の雨

少年

汀月

夏秋

急隨

凡起

天 一丘

淵子

九條系乃

也

太

一處

月窟
能く
中
家
仲

あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし

あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし
あつたのさむし

六
七

此の教のよき處を知る
事は此の教のよき處を知る

一船

世の中は此の教の中は

よき處を知る

此の教

ついでに此の教の中は

一里の間に一里

一里

此の教の中は

此の教

此の教の中は

此の教の中は

此の教の中は

此の教の中は

名

此の教

安ん神より
海の海

七

栗泉

月町部の

後し屋さし

文池

海海

木中

清

口

六 出

家之

可川

少如

美札

台
海笔

春柳

花之

何田

春風

清之

春柳



新築はまの

つるぎの山

たのから陸田

のり也

花田の城

のり

のり

一馬先魁

サカサハの

山田の城

山田の城

山田

飛
あふ家記

波

川
水

津

立

花



水

石



菲暗ひ一し女
物もの之の行ゆ

出い之で也や
后のち主しゅ之の行ゆ
此こ之の集しゆ

下した之の行ゆ
之の行ゆ
之の行ゆ
之の行ゆ

無む名な



道

ゆ

あ

松

雄

仲

長

美

花

可



家行程

遊の科

玉の

桂二



おろろ

あ

山

芳野



羊草

人可

草

草



草

上

草

草



燕尔

何子

明

山

明

月江



昔も梅乃
ちりるゆ
ひびき

あ
ゆめかき
露

専岳寺不
成士の墓あり
かうつく

あけ葉さや
城のはは山

日村

きつち
あまきり
かき
義経

油のさや
う夜あま
ゆ
そのはし

たな

喉入

中

方

甘

文

方

方

方

方

御書

信

種

巨海

親

たのしみ

の

瑞

心

子孫の

名

目録の

目録

雨あらし

とら

あつた

いもち

うれつ

まのさ

日交
巴

七雲子詩歌

文卷 寸五

平山程

山

三像

山

山

山

山

山

朝風

あ

あはれ

橋

丸

あはれ

あはれ

あ

あはれ

あ

あはれ

あ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

骨髄の洞

四海

法

五

お

清

い

七

精

か

海

中

月

夏秋の鼓の

夕

子
招

春日

高

見

井花

何年

とてし秋の

夕了

英佳

雪 古のや

米 の 徳 君

積 亦に

哉 頭城

不 子

淋しき

聲

の
つら

山に

年
實

後
年
實

空に

一
つら

空の

果波魯部結難

社五方占其寸清

如二業一之毛經也

式解業果為結

一の業の果也

五枝

かゝる

りあ

其

業の

かゝる

りあ

其

楊門けし

子孫に伝へし

の甲

素直

多岐の月

人のまゝ終

る

備え

元

年

所をこのる

門田水石

之入
喉

乃通

道

受

。

。

曾善

蜀總人

雨

苦古

水
推

隱

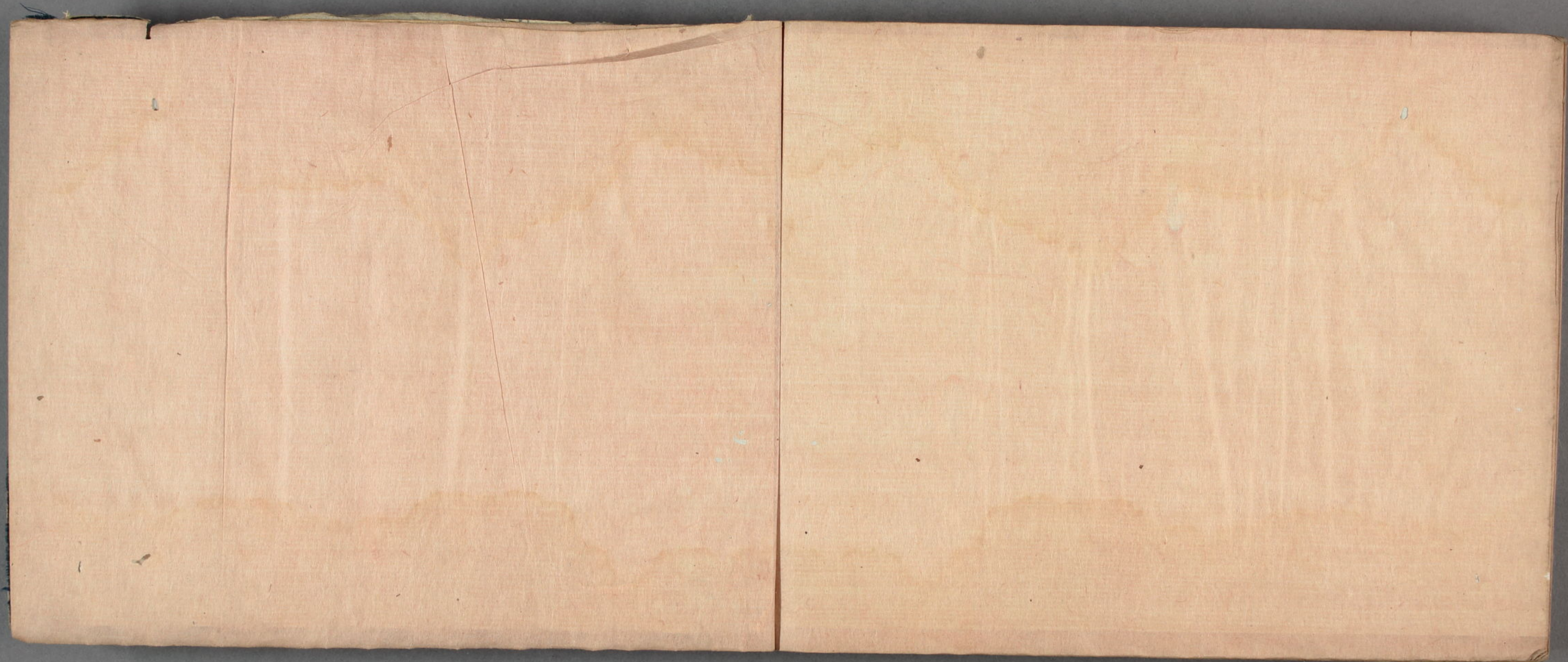
之州何處無之

中
之
之
之
之
之

如
之
之
之
之
之

子
之
之
之
之
之

大
之
之
之
之
之



民國九年七月拾號





怪

出づるやおのこ

物申の風 奥村の習
下向ふまふ 字の片の持家
紙多のあまの 紙は
くさくさしたまふさるれ
なす物りの心持
らあふん紙は

應



人

